

尾張南支部

尾張南支部（金田英和支部長）は2月6日（火）に豊田メタル（株）（半田市日東町1番地の6）の施設見学会を行いました。

同社は昭和45年7月に豊田通商（株）、トヨタ自動車（株）、愛知製鋼（株）の資本を受け設立、現在140名の従業員で運営され、事業内容は使用済み自動車の再資源化を中心に、廃棄物の低減に取り組んでいます。当日はアイブラザ半田（半田市東洋町）に午前9時30分に会員17名が集合して見学先に向かいました。

豊田メタル（株）2階会議室で常務取締役工場長 石井 浩氏の挨拶があり、続いて経理・総務部 夏目博崇氏より資料や映像を見ながら会社概要、事業内容について説明がありました。プ



挨拶をする石井工場長

ラント内の各設備について「シュレッダー3号機」では解体事業者から搬入される廃車プレスを破碎処理し、風力や磁力、手選別により鉄スクラップ、非鉄金属とASR（Automobile Shredder Residue）に分別されます。「VCS（Value Create Studio）」は、ハイブリッド車に使われているモーターを破碎後、銅、ネオジム磁石等に選別し、再度自動車製品として戻します。またエアコン、洗濯機などの廃家電も「VCS」でフロン回収を行った後、手解体（人の手による解体）され、モーター、熱交換器、プラスチック類を取り外し、「シュレッダー2号機」で処理して素材リサイクルをします。2号機では他にも、自転車、自販機、事務機器他の処理も行なっています。「エアバッグリサイクルプラント」では、自動車リサイクル法に沿って回収されたエアバッグを熱や電気により強制的に作動させて処理を行っています。他にもメーカーや整備段階で発生する自動車リサイクル法対象外のエアバッグ類の処理も可能です。「自動車リサイクル研究所」は平成13年にトヨタ自動車（株）の委託を受け、リサイクルしやすい

施設見学会



夏目氏と参加者の皆さん

車体構造の研究→リサイクルしやすい車両設計の提案、解体しやすい車両構造の研究→解体技術の情報開示、適切で効率的な再資源化の開発→レアアース・レア金属資源環境技術の開発を担っています。

見学は屋外に積まれた廃車プレスの塊が、巨大クレーンで「シュレッダー3号機」に投入される様子を見ました。破碎された物は自動車シュレッダーダストと金属類に分けられ、ベルトコンベアに乗り手選別室へ運ばれます。室内は破碎機の騒音が低減された環境であり、ベルトコンベア上の鉄製品・非鉄金属の手選別の作業がされており、選別の素早さと正確さの技術力に一同感心しました。また選別されたシュレッダーダストの繊維やウレタン、樹脂類が、電炉の原燃料に活用される説明があり、巨大な自動車リサイクルプラントが稼働する光景を目の当たりにしました。見学後会議室に戻り質疑応答が行われ、営業部主査 高木洋一氏から「現在、自動車用のシュレッダー機は全国に約120基あり、年間1,500万台の破碎処理能力があります。しかし国内で廃車になる台数が今年度は約330万台と推計され、今後業者間の競争が熾烈化していきます。弊社はトヨタグループで培った技術力で皆様の信頼にお応えすることができます。破碎処理に関して相談、困りごとなどありましたら、ぜひご連絡ください。」と締め挨拶がありました。その後、日間賀島の太陽荘にて見学会の感想及び懇親会が行われ施設見学会は終了しました。